



『変人のサラダボウル』
BOOK☆WALKER限定特典
平坂読
書き下ろしショートストーリー

姫と探偵とブックウォーカー

ある日のこと。鎚矢探偵事務所はいつものように仕事がなく、惣助はデスクで携帯ゲームを、サラはソファに寝転がってタブレット端末で本を読んでいた。

「はあ、『妹さえ』やばいほど面白かったのじゃ。思わず全巻一気読みしてしまったぞよ」
読書が一区切りしてサラが満足げに言った。それからしみじみと、

「それにしてもこの電子書籍というのは便利なもんじゃの。これさえあれば一生退屈せんわ」

「まあそうだな……」と頷く惣助。事務所が手狭ということもあつて、惣助も最近紙の本より電子書籍を買うことが多い。張り込み中の暇潰しにも大いに役立っている。

「ときに惣助、そなたブックウォーカーは使わんのかや？」

「ブックウォーカー？ 金\$だけで十分だろ。電子ストアのシェアトップだし」

「それはそうじゃが、日本人的にはやはり日本の出版社がやっておるサービスを応援したくないかや？」

「そういう気持ちがないが。……でも電子書籍つて、サービス終了したら読めなくなるだろ。だったら最大手のほうが安心のような——」

「心配せずとも大丈夫じゃ！」

惣助の言葉を遮り、サラは力強く断言した。

「ブックウォーカーを運営しておるのは数々の超人気作品で超有名な超大手出版社のKADOKAWAグループじゃから、そう簡単にサービス終了して課金が無駄になることもないのじゃ。それにラノベ界の王者KADOKAWAらしく、ラノベの品揃えは他の電子ストアより充実しておるし、同人誌や個人出版にも強い。また、商品を購入するとコインというのがもらえて、一コイン一円として使えるのじゃが、購入金額が多いほどコインの還元率が高くなり、高ランクのユーザーともなると本が実質無料で買えてしまうくらいのコインがもらえるのじゃ」

「うーん、そこまで言うなら始めてみるか」

惣助はさつそく自分のタブレット端末にブックウォーカーのアプリをダウンロードし、ちょうど欲しかった『べ切前には百合が捗る』という小説を購入した。

ブックウォーカーを始めてからというもの、惣助の人生は絶好調で、事務所には大口の依頼が次々と舞い込みすべて大成功、凄腕の名探偵として名を馳せるようになり、やがて鎚矢探偵事務所は岐阜県どころか全国一の大手事務所となった。あと依頼人の石油王から油田をもらってFXでも爆勝ちした。探偵の仕事を部下に任せて悠々と豪華客船のロイヤルスイートルームで札幌風呂に浸かりながら、「ブックウォーカー最高やでガハハ！」と高笑いする惣助。

さあ次はキミの番だよ！ 今すぐブックウォーカー！ 今すぐ始めようブックウォーカー！

「……という夢を見たのじゃ」

「……内容もひどいが『百合』1巻のブックウォーカー特典と同じネタを使い回してるのがもつとひどい。いい加減怒られるぞ」

「前回いけたなら今回も大丈夫じゃろ。鎚矢探偵事務所はブックウォーカーとエン●ージプ●ンセスを応援しています☆」

『変人のサラダボウル』 購入特典
BOOK☆WALKER限定ショートストーリー

2021年10月19日 発行

著者	平坂 読
イラスト	カントク
制作	株式会社ブックウォーカー 〒102-8077 東京都千代田区五番町3-1 五番町グランドビル3F
協力	株式会社小学館 ガガガ文庫編集部

本作品の全部または一部を無断で複製、転載、配信、送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。また、本作品の内容を無断で改変、改ざん等を行うことも禁止します。本作品購入時にご承諾いただいた規約により、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

ガガガ文庫	https://gagagabunko.jp/
BOOK☆WALKER	https://bookwalker.jp/
